外国語の勉強

ヘイン　テッ　ソー

私の初めてのゲーム機はニンテンドーのファミコンでした。そのころはまだ7、8歳でした。当時はインターネットが普及していなかったので、私はゲームに夢中でした。

私はゲームが好きです。しかしミャンマーはゲームを制作するにはとても発展が遅れていました。言語がゲームなどに利用されることはおろか、ミャンマーという国の存在を認識できる外国人もとても少ないです。ですからどんなゲームをするにもミャンマー語でやるという選択肢はありませんでした。でもゲームというのは読解力を必要としないのでなんとなくできました。幼い私にはとにかく自分が画面のキャラクターを動かせているということだけでも十分楽しかったのです。でもある日、「アラジンと魔法のランプ」のゲームをやっていて、コンティニュー画面について、「イエス」か「ノー」の選択を見た時、

私の頭の中のどこかのスイッチがついたような気がしました。「コンティニュー」とは続くかどうかを聞いていると、そして「イエス」は肯定の意味で「ノー」は否定の意味だと察したのです。その時は私は外国語という概念が初めてなんとなくわかったような気がしました。それから以前は無視していたゲーム内の色々な言葉に強い好奇心を持ち始めました。

それ以降は私がゲームをする時は母と父は私の辞書になりました。知らない言葉を見たらすぐ両親にたずねるようになり、いつの間にかストーリーが中心で九割ぐらいはゲームよりストーリーというすごく英語を読む必要があるゲームまでできるようになりました。たびたびゲームをやっていたので語彙力が豊富になってきたのです。そのストーリー中心のゲームをよくやるようになったことがきっかけで、私は本を読むことが好きになりました。それらの趣味が私の英語力の柱となってきました。そのおかげで私は結構英語に慣れ

ていたので高校を卒業するまで特に英語を勉強する必要はなかったです。むしろ学校で教わる英語の文法、ルールなどを暗記して正しい文章を作ろうとするほうが複雑で、時には逆効果でした。クラスでは私はいつも平均ぐらいにいました。でも英語の点数だけは優等生たちの上でした。なぜ試験前夜しか勉強しない自分が毎日何時間もちゃんと勉強している生徒たちよりいい点数をとれたのか少し不思議でした。

その時点で明らかになったのは言語は文法や語彙をひたすら覚えるだけでマスターできるものではないということでした。それらを学んだ上でそれらが利用されているその国の人の話や書いたものなどを聞いたり、読んだりしなくてはなりません。その国の人と話し合ってみて過った言い方を直してもらったりするのも役に立ちます。文法だけを覚えようとするとすぐ忘れてしまうのです。でもその文法で書かれた文しょうを何度も見ると自然

に深く覚えてきます。言語の勉強をする人たちは外国語を母語に訳し、母語のような使い方をしようとしたりしますが、文化の違いで母語の言葉は外国語のと完全にいっちすることはめったにありません。だから普段から何かの方法で接触するのが大事だと思います。正しい使い方をよく聞いていたら自然に正しい使い方ができるようになると思います。

教室ではその外国語と接触することの重要さは教わりません。映画、音楽、本などで学びたい言語に自分を馴染ませることはとても役に立ちます。学びたい国の言語と関する趣味は外国語を勉強するにはとてもいい友です。だから外国語が上手になりたいならその何かを持つべきだと私は思います。